

動物看護師統一認定化への対応

全動協後援:

動物看護職養成高位平準化対応連絡協議会

# 高位平準化

獣医師とのチーム医療体制      高質の動物医療      高質の動物看護

< 家庭動物      産業動物      野生動物      実験動物 >

## 公的資格 認定動物看護師

認定動物看護師 実績 >>>      <<< 継続セミナー

## 認定動物看護師

セミナー受講など自己研さん  
実務経験 >>>

<<< 高位平準化教育

\* 現役の動物看護職

\* 移行期間の合格者

27年4月1日以降  
(平成28年実施試験)  
合格者

- (1) 主治の獣医師の監督下で行う動物看護行為
  - ア: 診療の補助(保定、体温・体重測定、消毒、分娩補助、術野補助、術野確保、診療器具・器材の準備、術後の動物管理、包帯交換等)
  - イ: 疾病動物の管理・世話(体位交換、排泄、運動、散歩など)リハビリ
  - ウ: 検査(糞便・尿・血液検査、微生物検査、血清学検査、生化学的検査、病理学的検査、寄生虫検査等)
- (2) 保健衛生指導(栄養・投薬、飼育管理、疾病予防など飼育者指導)
- (3) 診療施設事務(受付、会計、記帳、医薬品・医療用器具の管理等)
- (4) 美容、しつけ

＜現行の業務内容の高質化＞

- 1) 主治の獣医師の監督下で行う動物の診療及び看護の行為
  - ア: 診断と一体的に行う生化学的検査及び理化学検査(心電図検査、脳波検査、画像診断検査、放射線検査等)
  - イ: 診療の基礎的行為及びその補助
    - (ア) 注射、採血、輸液、採材等
    - (イ) 治療補助、投薬補助、手術補助等
    - (ウ) 生体検査を含む臨床検査
- 2) **産業動物・実験動物に対する看護**及び検査・診療基礎行為とその補助

＜業務範囲の拡大＞

# コアカリキュラム<たたき台>作成 発起人会



発起人会 2011年1月11日 第一回会議

2月16日 第二回会議

6月10日 第三回会議

7月 7日 第四回会議

北海道地区 1校・関東地区 4校・関西地区 2校・四国中国地区1校

<発起人>

穴吹学園・滋慶学園・東京愛犬学園・中央動物・中村学園

ヤマザキ学園・宮崎学園・シモゾノ学園

# 平成23年7月28日(東京)7月30日(大阪)の検討内容

## ➤ たたき案を元に意見交換 意見聴取

区々である各校の現行カリキュラムの整理開始

\*分野の確認

\*科目名称統一

\*教科選出

\*選択科目の確認

\*コアカリキュラム教育総時間数 (教育総時間の2/3)

## ➤ 今後の行程にあたっての提案

\*コアカリ作成委員会設置 → 徴収意見の整理

# < 専門教育機関 コアカリキュラム作成 報告 コアカリ作成委員会 >

記  
録

## コアカリ作成委員会

第1回委員会	平成23年 8月29日
第2回委員会	平成23年10月10日
第3回委員会	平成24年 2月24日

委員長 石橋 妙子 (大阪ペピィ動物看護専門学校)  
副委員長 山下真理子 (国際動物専門学校・大宮国際動物専門学校)

委員 荒岡 杉 (専門学校 穴吹動物看護カレッジ)  
今西 孝一 (国際動物専門学校・大宮国際動物専門学校)  
奥田 宏健 (岡山理科大専門学校)  
狩野 由佳 (東北愛犬専門学校)  
神部 知江子 (中央動物専門学校)  
坂元 祥彦 (宮崎ペットワールド専門学校)  
関 智恵子 (大阪コミュニケーションアート専門学校)  
高塚 恵 (吉田学園動物看護専門学校)  
平原 法子 (国際ペットワールド専門学校)  
古川 俊紀 (広島アニマルケア専門学校)

世話役 永井 正三 (大阪ペピィ動物看護専門学校)  
下蘭 恵子 (国際動物専門学校・大宮国際動物専門学校)

## <コアカリキュラム作成の工程>

\* 発起人会において専門教育機関で現行している動物看護師養成カリキュラムを収集  
(高位平準化対応連絡協議会44校の内20校からカリキュラムの協力があつた)

- ① 各校の現行カリキュラムを洗い出し
- ② 科目名称の統一
- ③ 分野分け(基礎・専門基礎・専門応用)
- ④ 各分野の定義を定め、所属教科を提示
- ⑤ 各教科のキーワード(履修科目)
- ⑥ 教科ごとの時間数の割り出し・・・アメリカの動物看護教育を参考  
総時間2400時間
- ⑦ 文科省「専修学校の単位制導入」施行に伴い、教科時間数を単位換算
- ⑧ 学識者の先生方のアドバイスを受ける
- ⑨ 動物看護職制度在り方検討委員会に「案」として提出・・・評価を受ける

## 実務の出来る職業人の養成

### 実務とは、現場＝動物医療に則した職務

#### <現在>

#### (1)主治の獣医師の監督下で行う動物看護行為

ア:診療の補助(保定、体温・体重測定、消毒、分娩補助、術野補助、術野確保、診療器具・器材の準備、術後の動物管理、包帯交換等)

イ:疾病動物の管理・世話(体位交換、排泄、運動、散歩など)リハビリ)

ウ:検査(糞便・尿・血液検査、微生物検査、血清学検査、生化学的検査、病理学的検査、寄生虫検査等)

#### (2)保健衛生指導(栄養・投薬、飼育管理、疾病予防など飼育者指導)

#### (3)診療施設事務(受付、会計、記帳、医薬品・医療用器具の管理等)

#### (4)美容、しつけ

<動物看護職制度在り方検討委員会 業務範囲より>

## <有識者の先生方からのアドバイス>

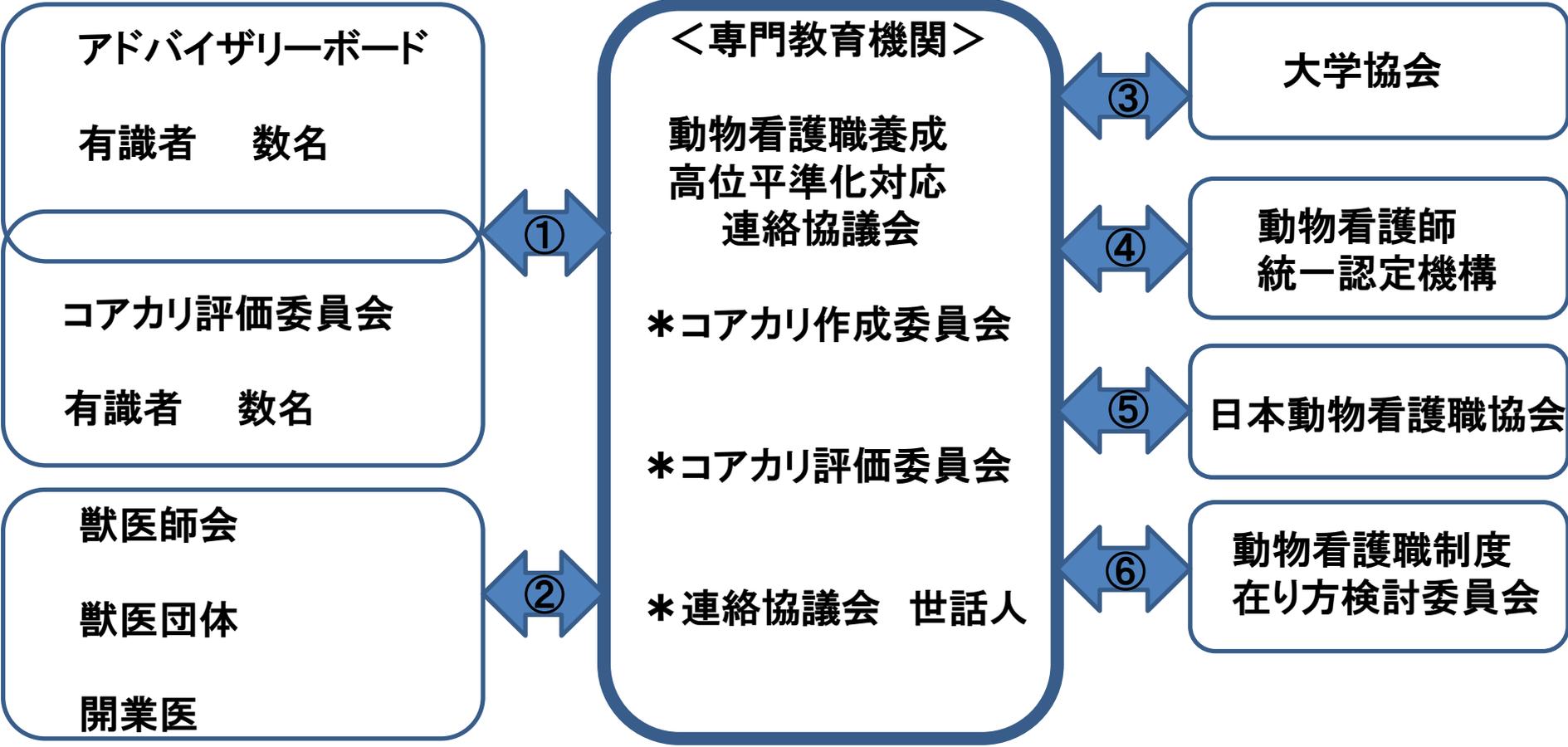
\* 山根義久先生（日本獣医師会会長・統一認定機構長ほか）  
家畜伝染病予防法の修学

\* 大橋 先生（大阪府立大教授・動物看護職制度在り方検討委員・  
統一認定機構委員）

ホスピタリティー等、動物看護師ならではの業務の修得強化  
単位の取り方 講義60時間は3単位（現2単位であった）  
インターン実習を多くとることが重要  
将来的には「マイスター制」など専門学校卒動物看護師の向上目標を作ることも有用

\* 酒井健夫先生（日本大学教授・動物看護職協会監査）  
コアカリキュラム教科への助言  
マネジメント（顧客管理・トータルマネジメント）  
PC実習（情報処理）  
動物解剖生理学（臓器の形と機能・歯科（歯牙の発達と構造）・卵巣子宮精巢  
薬理学（薬物学・化学式・医療廃棄物に関する知識）  
関連法規（育児介護・健康保険）  
講習衛生（ズーノーシス・滅菌消毒⇒院内感染）  
産業動物（農場HACCP）  
検査（細胞診）  
その他 教育の姿勢やコアカリ委員会の運営にも的確なご助言を頂きました





- ① カリキュラム(教育内容)について 指導
- ② 臨地実習 連携 動物看護師像 指導
- ③ コアカリキュラム 摺合せ
- ④ 試験
- ⑤ 卒後教育・教員育成・動物看護師倫理綱領・動物看護学確立・動物看護職像確立
- ⑥ 動物看護職の在り方(就業環境・職域など検討と確立)・専門教育機関養成(価値の向上に繋げる)